

経済学部 向野理央

私はハンガリー海外研修に参加し、ブタペスト商科大学の学生との交流を通して、様々な文化を学ぶことが出来た。この経験は私自身の成長に大きくつながったと思う。ここでは、自分が感じたこと、学んだことについて話していきたい。

ハンガリーの学生はとても優しく、毎日が充実していた。特に my brother の Marcell にはとても感謝している。頑張って日本語を話している様子から、彼の日本に行きたいという強い熱意を感じた。他にも、ドン引きされて一時は不仲だったけど、今は 1 番話している Abi、いつも僕たちを後ろから守ってくれた Dorina、ダンスを恥ずかしがりながら見せてくれる Julchi、本当に色々な人と関わり、友達になることが出来てとても嬉しく思う。ハンガリーのことや日本のことについて話すことがとても楽しかった。彼らとまたどこかで会える日を心待ちにしている。

ハンガリーの文化は色々驚かされるものが多かった。ヨーロッパの建築美はとても素晴らしく、いつ見てもきれいだっただ。特に Matthis Church は外観のゴシック様式は昼見ても夜見ても美しく、教会内はとても落ち着く雰囲気、ガラスなどもきれいだっただ。その反面、ハンガリーでは皆どこでもたばこを吸うようであった。日本では考えられないことが当たり前前に起きていた。とても優しいようなバスのドライバーに限って運転が荒く、駅の通路では爆音で路上ライブが開かれていて、英雄広場ではいきなり黒い服の集団が現れたり、とても刺激的な毎日だった。実際に行ってこのような生活を体験できることはとても嬉しく思う。

食生活はほぼ毎日マクドナルドを食べた思い出しかないが、グヤーシュはとても美味しかった。日本にも普通にありそうなくらいとてもコクがあり具材もシンプルだった。また、運が悪いことに、とても具合が悪いときにランゴースュを食べに行った。具合が悪くなかったら絶対に美味しく感じるだろうなと思いながら食べた。ピザやパスタはとても美味しかった。ファストフードのようなお店で私にとってはハイクオリティで感動した。ハンガリーでは一切魚というものを食べなかった。海がないため川に生息する淡水魚を食べるらしい。2 週間は余裕で我慢出来たが、私には刺身がない生活は考えられなく、ハンガリーで働いている日本人はすごいなと思った。

私の班は ICT が発表テーマだったが、ハンガリーはこれからますます発展していくと思う。ハンガリー政府の情報技術開発庁長官のお話を聞いて、交通系のシステムや教育の ICT 化が徐々に進んできているため、速いスピードで進んでいくと思う。レストランなどでも人を使わずに、デバイスを使った注文が行われており、業務の効率化が進んでいた。大学内のクラスなどでアイスブレイクを行う際、アプリが使われていた。海外の人とでも楽しく行うことが出来、日本の授業でも使えると思った。

最後の成果報告会まではハンガリーの学生と城西の学生との交流が深まり、PPT を合わせ、日本語の翻訳や、発音など教えていく中で英語力を向上させることが出来た。英語を日本語

にすることは難しかった。できるだけ翻訳機を使わずに翻訳をしたが、専門用語や長い文章などは難しかった。難しい英語を簡単な英語で説明してくれるハンガリー学生の優しさを感じた。成果報告会当日はとても緊張したが、それ以上にハンガリーの学生が緊張していて、少しは落ち着いた。発表もスムーズに進み、約半年間みんな頑張ってきたことを表すことが出来た。

ハンガリー研修では、多くの学生との交流を通して文化や考え方を知り、日本に対してどのような関心があるのかについて知ることが出来た。そして、授業を受けて、ハンガリーについての歴史や日本人とハンガリー人の違いについて知り、教養を深めることが出来た。実際に現地に行き、目で見て肌で感じることは、行った人にしか分からないことがたくさんあると思う。それはいいことも悪いこともあって、たとえ悪いことでも経験できることが嬉しいと感じている時点で自分は成長したのかもしれない。時間が過ぎるのは一瞬で、気づけば「あと何日で帰国だね」という会話になっていた。遠慮なんてする暇もなく毎日自分がしたいことをすることが出来た。海外に行くたび自分一人の力はなんて無力なんだと落ち込むときもあるが、自分は一人じゃないと再認識でき、人と関わることの大切さを学ぶことが出来る。

この約2週間という生活を経て、また来たいと思えるような国だった。また会いたいと思えるような学生達だった。関わってくださった、ブダペスト商科大学の先生方、ブダペスト商科大学と城西大学の学生、城西大学の先生方、国際教育センターの方々全ての人に感謝を申し上げます。

